

ふるさとイベント協議会の設立趣旨(NPO 法人設立にあたっての趣旨書)

食の安全や自給率向上が叫ばれる中で、産地、農村に目を向ければ、農業従事者の高齢化及び後継者不足、耕作放棄地の拡大、過疎化など、とても深刻な状況が続いています。

また、消費地や市場に目を向けると、食の安心や安全性の確保を理由に、国産農産物の評価や需要が高まりつつあり、また世界的な食料危機や温暖化問題が叫ばれる中であって、今後さらに地産地消に注目が集まり、国産農産物の消費が拡大する兆しにあります。

こうした現状において、国産農産物の生産拡大は至急の課題であるにもかかわらず、最近では農産物の価格下落などにより、職業としての農業の魅力は失墜し、後継者の確保が困難な状況が続いています。閉塞感のある今の農業を、より魅力的に、また自立した農業モデルとして育ててゆくには、農業や生産者に対する消費者の理解がなければ叶いません。

農産物の価格を維持することは、農産物の質の向上や食の安全を確保することでもあり、これについては消費者の理解をさらに深める必要性があります。産地や流通業者から消費者へとといった一方通行の情報の流れだけでは、なかなか興味関心を喚起し続けることはできません。農産物がどのようにできるのか、どのような仕組みで食卓に届くのか、より良い食生活のために一人一人に何ができるのかを考え話し合う機会が必要です。生産者と消費者が交流し、お互いに理解し合う活動が必要と考えられます。

すなわち買い手と作り手との関わりを、より密接に持つことができる機会や場が求められます。消費者が産地に出向き、その地の空気、土や自然に触れ、産物を味わい、生産者と交流する機会を持つことで、「国産農産物を食べることが食の安全を確保することにつながり、また温暖化防止や環境保全に貢献する」という理解を促進できるでしょう。また生産者にとっても消費者との交流を深めることで、農業を継続するためのより良いモチベーションとなることでしょう。

とはいえ都市生活者が地方農村に集まり交流を深めるということは、とてもエネルギーのいることです。一人でも多くの人を農村に集めるためには、誰もが楽しめ、継続的に参加できるイベントでなければ、それを叶えることはできません。

そのために、当 NPO 法人ふるさとイベント協議会は、コンサートやセミナー、農業体験及び農業研修会、農産物の試食会や即売会等、多くの人が地方農村に足を運び、楽しみながら学びのあるイベントを企画立案、実行します。これにより消費者と生産者を結ぶ役割を果たし、地方農村の活性化やイメージアップを図ります。また農業の魅力が向上すれば、就農希望者も増加し、都市と地方の雇用のアンバランスも改善されてゆくことでしょう。

そして一人でも多くの都市生活者に、地方農村の良さや農業の価値、環境保全への理解を深めてもらい、農村や産地生産者との交流やコミュニティを継続的に、より密接で、より深いものに育ててゆく活動を行います。

こうした活動を通じて、国産農産物の消費拡大や農村の活性化、農村の環境保全、および農業の発展的存続に貢献して参ります。